

自主調査研究報告 [継続報告]

寒地空港整備と地域振興に関する調査研究
(他2B-3-①)

大分類 他2B

中分類 他2B-3

1. 目的

北海道内の7空港(旧国管理:新千歳、稚内、釧路、函館、旧道管理:女満別、旧市管理:旭川、帯広)は令和2年度から空港運営の民間委託(いわゆる民営化)に伴い、北海道エアポート株式会社(以下、HAP)が管理運営を行うこととなった。民営化にあたっては、ゲートウェイとなる各空港の有効活用や戦略的な空港間の連携を進め、観光客を北海道全体に分散、周遊させることでさまざまな経済波及を道内に広げ、北海道全体の地域活性化につなげるのが目的の一つとなっている。しかしながら、令和2年からのコロナウイルス感染症拡大によって国内外の人流が途絶えたことから、HAPにおいては種々の事業が中止されたり先送りされたりしている状況にある。

そこで、ポストコロナの観光客の復活を見据えて、当センターの今までの港湾を中心とした地域振興にかかる調査研究の実績も生かしながら、上記7空港の観光目的の空港利用者増大及び満足度向上に資する調査研究を実施する。

2. 実施内容

道内7空港の利用者増大に向けた課題はいくつか挙げられるが、観光コンテンツが豊富な札幌圏(新千歳空港利用)への集中をいかに分散させるかが大きなテーマとなっている。そこで、従来の「食」や「自然」をターゲットにしていた従来の観光に加えて、今後の成長が見込まれるアドベンチャーツーリズム(例えばサイクルツーリズムなど)に着目することとし、札幌

圏への立ち寄りに拘らないアドベンチャー系の観光客の行動パターン等を分析することにより、地方空港の活性化ひいては地域振興につなげていくことを目的としている。

令和4年度は、7空港の基本データ(施設の状態、乗降客数、貨物量など)を整理するとともに、北海道におけるアドベンチャーツーリズム(AT)の現状と課題、ATの構成要素となるシーニックバイウェイ、サイクルツーリズム、フットパスのそれぞれのルートの整理及び博物館などの文化施設の整理を行った。

また、観光客の分散に効果的といわれている航空券のオープンジョーに関する資料整理をおこなった。さらに、インバウンド観光客がSNS(Social Networking Service)で発信する情報は北海道を取り巻く情勢や雰囲気・感情などの把握に有効なことから、ツイッター(現:X)(<https://twitter.com>)から北海道の観光とアドベンチャートラベルに関する「つぶやき」を抽出し、月別につぶやき数やテキストマイニングによる分析を行った。

3. 主要な結果

①シーニックバイウェイルートは開発局が認定している14の公式ルートと2つの候補ルート、サイクルツーリズムは5の公式ルートを整理し、いずれも地方空港との関係について整理した。

②オープンジョーに関しては、JALを除いて「ダイナミックパッケージ」という名称で商品化されていることが分かった。

③「つぶやき」数は令和4年10月から令和5

年8月までの11カ月間で観光がキーワードのものが約450件、アドベンチャーがキーワードのものが約410件収集できた。

④各空港を出発点とした場合、スーツケースなどの荷物の運搬が大きな課題であることが分かった。

今後の対応

令和5年度は地方空港を発着点とする公共交

通機関とレンタカーを利用した場合のアドベンチャーツーリズムのモデルコースを作成する。

また、アドベンチャーツーリズム関係者に各空港の強みと課題及び各空港からの荷物運搬についての考え方などについてアンケート調査を行う。

SNS調査を引き続き行うとともに、テキストマイニング等の手法を使って北海道観光の課題等を探る。